

【佳作】

水と親しむために

宮城県仙台二華中学校

一年 中 なか 川 がわ 修 しゅう 一 いち

僕が「水」と聞いて一番最初に思い浮かぶのは「プール」である。

僕は小さい頃からスイミング教室に通っている。水にプカプカと浮かんでいるのは心地良いし、大会でベストが出るととてもうれしい。だから、水泳はとても楽しいと僕は思う。そして、世界中の人々がこの楽しさに気付けるよう、世界中のどこに住んでいたとしても水と関われる世界になっていってほしいと思う。

僕はこのような世界にしていくにはどうしたら良いのか考えてみた。まず、そのために必要不可欠なことのひとつとして「川や海の水がきれいであること」があげられる。プールがない国で水で遊ぶには川や海に入るしかない。しかし、川や海などの水が汚れていると水に入ることすらできない。入ると病気になる恐れがあるからだ。だから、僕はプールがない国に住む人たちが安全に水に入って遊べる世界を目指していきたいと思う。

僕はこのことについて考えていてフランスのセーヌ川を思い出した。

セーヌ川は今年のパリオリンピックでトライアスロンなどの競技の会場となった川であり、フランス北部を流れている。大雨の時に生活排水が流れ込んだり、産業排水が流れ込んだりしてしまったことが原因で水質汚染が問題となっている。このセーヌで競技を行った選手の中で体調を崩した人も少なくない。あのような川では水と親しむことの本当の楽しさに気付くことはできないと思う。

セーヌ川の水質汚染について調べていたら新たに二つの川の名前がでてきた。

一つ目の川は「ガンジス川」である。この川はインドを流れる川で、イ

ンドでは聖なる川とされていて、沐浴や生活用水に使われている。水源はヒマラヤ山脈のガンゴトリー氷河で上流では透き通った水が流れている。しかし、インドの都市を通るときに排水や遺体、遺灰が流され、下流に行くにつれてどんどん汚くなっていく。そして、この川は世界で最も汚い川の一つとされている。

二つ目の川は「テムズ川」である。この川はイギリスを流れる川である。昔、下水が流れ込んでいて「大悪臭」と呼ばれるほどにおいがすごかったことや、汚すぎて生物がいなくなり「生物学的な死」と科学者たちにいわれたこともあった。しかし、下水施設が整備されたことによって生物が戻ってきていたこともあった。しかし、近年下水施設の老朽化や、人口の増加によって下水管が対応しきれいなくなったりしてまた川が汚くなりつつある。大きな下水管をつくるという計画があるらしいので、これによってまた川がきれいになったら良いと思う。

この三つの川には「下水が川に流れ込んでいる（流れ込んでいた）」という共通点がある。つまり、多くの場合川の水質汚染の原因は下水の流出によるものであると考えられ、水質汚染を抑えるためには下水設備を整えるなどの取り組みをしていくことが必要になってくるといえる。個人では新たに下水管をつくるなどの大掛かりな取り組みはできないが、家庭から出る排水をなるべく減らす、なるべく油や洗剤などを流さないなどのもし川に下水が直接流れ込んでしまっても川への影響が少なくなるように対策をすることならできると思う。

僕は、ごみをしっかりとゴミ箱に捨てたり、使う洗剤の量をなるべく減らしたりして川や海を汚さないようにしていきたいと思う。そして、世界中の人が安全に水と親しめる世界になっていったらいいなと思っている。